

# ロンドンの子どもたち

## ープレイグループでの半日ー

清原 規子

### 子どもの養育事情

ロンドンには、実にさまざまな人たちが集まっています。夫婦で自分の子どもを育てている人はもちろん、養子をとってその子どもを育てている人、シングルマザーの人、難民もかなり受け入れているので、貧富の差も結構あります。人種もさまざまです。そのような中、一人一人のニーズに合わせて、子どもをサポートする側もかなりいろいろな職種が

あります。個人的に見てもらおう場合も、資格の要らないオ・ペア（語学学校に行きながら、子どもの世話をしたい人の家で生活し、その子どもの面倒を見る人）から、資格を持ち、犯罪歴がないという証明書（ポリスチェック）を持っているナニー（その子どもの家で面倒を見る人）、チャイルドマインダー（自分の家に子どもを連れてきて面倒を見る人）などがあります。集団では、経営母体もさまざまですが（公立、教会、子どもの親など）、幼稚園

あるいは保育園（半日のところと一日のところがあります）、そして、プレイグループ（一日の場合でも、午前と午後では子どもの入れ替えがあつたりするようです）等です。

特に私が現在ボランティアとして通っているプレイグループがある地域は、公立の幼稚園がほとんどなく、その分プレイグループが発達していて、二十グループ近くあります。そして、行政の方も、この二十のプレイグループを支援、教育するのに非常に力を入れています。

### 私の働いているプレイグループ

ロンドンの北部、中流階級の人たちが集まっている地域にあるレインボウプレイグループは、教会のホールを借りて、子どもたちの親たちが経営しています。行政からは、補助が出ていますが、親たちも、パーティーやオークションなどで、資金を作ったり

しています。

月曜日から金曜日まで朝の九時三十分から十二時まで、スーパーバイザーを含む四人の資格を持ったスタッフが子どもたちの世話をしています。子どもは二歳半から五歳までの子が来ています。誕生日が来た段階で参加することができるので、時々新しい子どもが増えたりします。登録している子どもは三十五人ほどいますが、全員が毎日来るわけではないので、一日だいたい二十二〜三人程度の子どもが遊びにやってきます。国際色豊かで、イギリス人もちろん、インド人、スペイン人、ロシア人、アフリカ人、トルコ人、イタリア人、ギリシャ人などの子どもたちが来ています。スタッフは子どもにも英語で話しかけます。英語は喋れなくても、子どもたちは雰囲気で行かぬのか、コミュニケーションはとれています。おそらく、スタッフの暖かい空気で、安心して落ち着いていられるのだと思います。

## プレイグループでの一年

九月から新学期（秋学期）が始まります。昨年までいた子ども達も何人か残っていますが、半分くらいは新しいメンバーです。全員同じ空間で遊んでいるのですが、それぞれの子どもに責任者のスタッフが決められていて、個人懇談が各学期に行なわれる時は、そのスタッフと、懇談を希望した親が話をします。レインボウプレイグループは、各子どもの記録をかなり丁寧にとっていて、親はいつでもそのファイルを見ることができます。また一年の最後には親に記念としてあげています。

それぞれの学期（秋、春、夏の三学期制）の中頃にハーフトームといって、一週間程の休みがあります。スタッフは毎週のトピックを決めていて、たとえば昨年の秋学期の前半は、「動物」とし、恐竜からペット、水中の動物まで週ごとに焦点をあて、そ



▲すぐ近くの公園に散歩にでかけて

のトピックに合わせて遊具を準備したりします。この夏学期は、「旅行」がトピックで、駅に電車を见に行ったりしました。時には、近くの大きな公園（ただただ広い、木に囲まれた芝生広場）まで散歩に行つて自然を楽しみます。そんな時はスタッフだけでは子どもを見ることができないので、何人かの親たちと一緒にきてもらいます。

季節の行事もそのトピックの一つです。クリスマスは親がちょっとしたお菓子やジュースを準備して、簡単なパーティーを開いてお祝いします。イギリスで、もう一つ大きな行事はイースターです。チョコでできた小さなイースターエッグを使ったお菓子を作ったり、カードを作ったりしてお祝いします。イギリスの行事だけでなく、各国の行事も話して聞かせたり、絵本で読んだりして上手に取り入れています。この夏学期には、日本のボランティアグループの人たちがこどもの日にちなんで、日本の文

化を紙芝居や折り紙などで紹介してくれました。

### プレイグループでの半日

朝、プレイグループが始まる四十分

ほど前にスタッフは準備に來ます。ただし子どもがいるスタッフもいるので、彼らは自分の子どもを学校に送つてからやつてきます。

子どもたちが母親、父親あるいはチャイルドマインダーに連れられて、やつてきます。ドアは九時半になつてから開くので、それまではドアの外で待っています。ドアが開くと、自分の名前の札を箱に入れ、ホールに丸く並べてある椅子の所に行つて、他の子どもたちが来るのを待ちます。親もすぐに出て行く人もいれば、出席をとる間、子ども達の隣に座つて一緒にその場を楽しんでいる人もいます。

出席を取り終わると、子どもたちはみんなそれぞれ



れ自分の好きな場所に遊びに行きます。親と離れるのが不安な子どもは、子どもが落ち着くまで親が残っていたりします。特に初めて参加した子などは、一週間、あるいは一ヶ月ほど母親と一緒にいたりもします。また、一時間ほど他の部屋に行つて様子を見たり、ということもしたりしながら子どもが無理なく慣れていくように配慮をしています。毎日お手伝いの親が一人いるので、その人も、子どもたちと遊んでくれます。

半分に仕切られたホールの中には、水トレイ、砂トレイ、パズルコーナー、粘土コーナー、家コーナー、ミニカーコーナー、ペイントコーナー、ブロックコーナー等ありますが、それぞれのコーナーに置いてある物はその日によつて少し違つています。また、毎日一つスタッフが準備した特別活動があり、簡単な料理をしたり、製作活動をしたりするのですが、このコーナーは結構子どもたちに人気で

す。家コーナーには白人や黒人の赤ちゃん人形が置いてあります。壁に貼つてあるポスターも、国際色豊かです。

子どもたちがトイレに行く時は必ず誰かスタッフがついていきます。私も最近ようやくポリスチエツクを終わつたので、私も子どもたちをトイレに連れて行くことができようになりました。

十時半過ぎくらいから片づけを始め、スナックタイムの準備をします。普段は、子どもたちの親が持つてきてくれたフルーツを食べ、牛乳や水を飲むのですが、料理コーナーがあつた日は、自分たちで作つたクッキーや、ピザパン、サラダなどを食べます。誕生日の子がいる時は、その子の親がケーキを持つてきて、みんなで誕生日の歌を歌つてお祝いします。

スナックタイムが終わると、反対側のホールに置いてある、滑り台やジャングルジム、平均台、ポ一

ルやフラフープなどで思い切り身体を動かして遊びます。あるいはもう一つのホールに移動して、車や三輪車で遊ぶのも、子どもたちは大好きです。走り回ったり、追いかげっこをしたりしている子どもいます。スタッフは、子どもたちが怪我をしないように注意して見守りながら、ちよつとお茶を飲んで休憩です。最近ようやく母親から離れてプレイグロブに参加できるようになった子は、この時間辺りにちよつと疲れてもくるのでしよう、寂しくなつてスタッフに甘えて抱っこしてもらつたり、何度も母親に会いたいと訴えてきたりして、そのつどスタッフに優しく声をかけてもらつています。

思い切り遊んだ後は、また最初のホールに戻つて、スタッフの人に本を読んでもらいます。大きな本で絵を見ながら話を聞くこともあれば、人形を使って話をしてくれることもあります。

そろそろ迎えの時間です。子どもたちは椅子に座



▲スナックタイムの前に手遊びを楽しむ子どもたち

り、自分たちが描いたり、作ったりしたものをスタッフからもらいながら、迎えに来る大人を待ちます。親でない場合は、誰が迎えにくるかをノートに書いてもらってあるので、子どもを手渡す時にその人にサインをしてもらいます。親の姿が見えると、

ドアの所に立っているスタッフがその子の名前を呼んでくれます。みんな迎えが待ち遠しくて仕方ありません。ドアの方をじっとみつめながら、私の方を向いては、「おかあさん……」とつぶやいている子どもいます。自分の名前が呼ばれると、それは目をきらきら輝かせて嬉しそうに親の所へ行きます。

子どもが全員帰ってから、私たちも解散です。次の日の確認を少しだけして、それぞれ帰って行きます。これが普段の活動ですが、子どもにいろいろな体験する機会をと、週に一度音楽の専門の先生がやってきます。歌を歌ったり、音楽にあわせて身体を動かしたり、絵本を読んでもらった後、その絵本とつな

げて楽器で遊んだりして楽しい一時を過ごします。その日は気分が乗らないのか、みんなが踊っているのを、じっと座って見ている子ども何人かいたりします。スタッフは声をかけはしますが、無理強いはしません。音楽の先生も、子どもたちの言葉や表現を上手に生かしながらすすめていきます。

同じブレイグループでも、図書館の部屋を借りていたり、スタッフの考え方もさまざまで、場所によつてかなり様子が違うようです。レインボウグループはどちらかという庭とかはないものの、かなり恵まれた場所のようです。スタッフにも恵まれていると思います。きつと地域的なものもあるので、しょうが、親とスタッフがお互いに支えあい、共に子どもを育てていこうという姿勢が子どもにも伝わって、子どもがのびのびと自分を表現しているのではないかと私は思っています。（ロンドン在住）